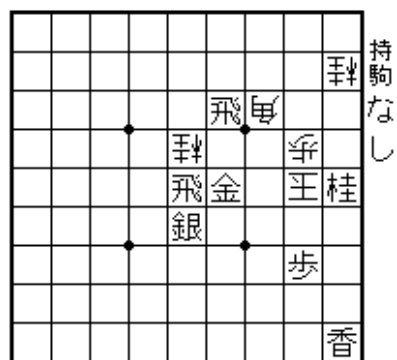


◎風みどりさん作



▲34金 △55角 ▲35金 △同玉 ▲45飛成まで5手。

4点-4、3点-10、2点-2 平均 3.13 9位

(座談会)

蛙「金の動きがテーマですね。46に引きたくなる形なのが良いと思います」

B「うんうん」

E「でもこれは一目こうでしょう」

蛙「え〜、そう？下開けてるもん」

E「だって一手詰（47飛成）じゃない」

蛙「それはそうだけど」

A「これ（12桂）がね、ちょっと惜しい」

蛙「ないと…あ、そうか。でもコレ57とを置いて角捨てを入れるとかできそうな気がしますね」

(短評)

Uraさん「金を引くか出るかが悩ましい」

たくぼんさん「金の動きが印象に残る。きっちり出来ています」

藤井孝太郎さん「一拍置く金の動きを味わう」

やっくん「角が19まで行くかと思いきや」

原亜津夫さん「10番とペア？こちらのほうが詰将棋っぽい」

今川健一さん「駒数は多いが、5手詰コンクールなら高得点かな」

小五郎さん「ユニークな金のステップ」

小峰耕希さん「3手目45飛成には異有り！」

MNさん「3手目45飛成の紛れが面白い」

☆角が19まで旋回して逃れ。実戦だったら見落として「ギャー！」というところですね。

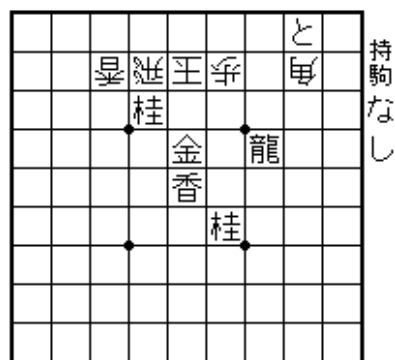
忠昭さん「金の動きが面白い」

北北東さん「19香が当たりになるところがうまい」

利波偉さん「19角成と取る形に纏めたい」

伊田勇一さん「金の行き場所として34金は不利感があり、作者は狙いは成功している。その後の金二段活用がうまい。でも、5手詰は不利だ」

⑩風みどりさん作



▲64金 △55角 ▲53金 △同玉 ▲54龍まで5手。

4点-1、3点-10、2点-5 平均点 2.75 12位

(座談会)

蛙「風みどりさんの作品が偶然並びました」

B「ああ、これも金の動きがテーマか」

蛙「風さんお得意の90度回転ですね」

E「こっちの方がいいですね」

蛙「そうかなあ。こっちは桂があるからこっちに動かしたくなるじゃない。

実際◎の方がいい、という人が多かったですよ」

E「そうかなあ。角道塞ぎたくなるじゃないですか」

B「捨て合が出そうな形だよな」

A「そうそう。あと31とが惜しい」

蛙「う〜んと、この配置は…？」

B「4手目こっち(41)のアレだね」

蛙「なるほど、確かに惜しいですね」

(短評)

Uraさん「初手から53金ではイケナイのだった」

うによんさん「9と10でワンペアだ」

クロさん「意外に梃子摺る。53金の感触がよい」

たくぼんさん「これは9番と同じ構成ですね。同じ作者かな？」

藤井孝太郎さん「うまい具合に◎の次。いずれも風さんのはず」

やっくん「中合が出てくるかと思いきや」

原亜津夫さん「5手詰ならば初手はこれ以外考えないのでは。初手44金に53合で逃れ、とかにしてみたい」

☆結構同じ意見が出てますね。

今川健一さん「お金の使い方、勉強になりますね」

小五郎さん「◎と同じく金の動きが面白い」

小峰耕希さん「◎の90度回転版。ただ全体的に◎に劣る。作者予想…どなたかは予想が付きませんが、◎と同一人物では？」☆ピンポン。

真Tさん「金の2段活用がいくつかありますがこれが一番気に入りました」

MNさん「金の動きに味がある。もう少し紛れが欲しい」

忠昭さん「前作◎とペア出題か？」

風みどりさん「(9・10に対するの評) 誰だ5手詰なんて投稿したのは」

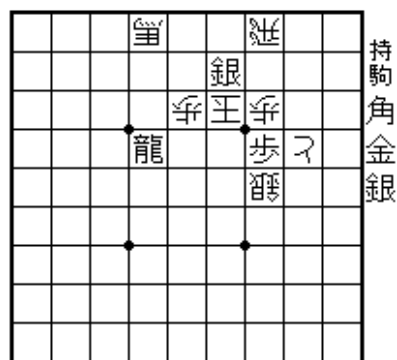
☆…。

北北東さん「46桂の配置で詰め上がりが見えてしまうのが、残念」

利波偉さん「渋い金の動き」

伊田勇一さん「前図と同じ金の二段活用だが、こちらの方が味がある」

⑪けんちゃん作



▲32銀 △42玉 ▲51角 △同飛 ▲62龍 △同馬
▲63金まで7手。

5点-5、4点-7、3点-4、2点-1 平均 3.94 1位

(座談会)

蛙「この作品が優勝でした」

D「うん、これは良くできてる。こっち(21角)に誘われるよね」

蛙「らしい手が一杯ありますしね。変化も小味ながらたくさんあって」

E「この34歩の配置が本当にうまい」

B「そうそう」

E「これで全部変化が片付けられる、ってのがすごい」

A「地味ではあるんだけどね」

蛙「そうですねえ、一般向けのコンクールだと派手さがないのであまり受けられないかもしれませんが、このサイトのだと若干マニアさんが多いので、こういう渋いのも評価が高くなるかな、と思います。狭いところで密度の濃い手順で、推敲の高さがいかにも、という感じですね」

(短評)

Uraさん「62馬と64竜の配置で収束は見えるが、51角という持って行き方がウマイ」

うによんさん「当たり前のように21角から入る」

たくぼんさん「初手5二銀の紛れもあり、意外と苦戦。5一角が素晴らしい。今回の1番のお気に入りです」

藤井孝太郎さん「収束は見えるが、手の組み合わせが問題」

やっくん「定番の収束ながら51角に新味アリ」

原亜津夫さん「手筋物だが、これは相当レベル高い」

今川健一さん「苦勞して創っても、手筋ものは評価が低い。残念」

小五郎さん「62龍が胸のすく一手」

小峰耕希さん「どの手も素晴らしいし、紛れも多い。優勝候補」

MNさん「切れ味鋭い手順。手筋物なれど、解後感抜群」

忠昭さん「習いある収束だが初手と3手目が良い」

風みどりさん「初手に角を打ちたくなる」

北北東さん「好手筋の連続なので逆に解きやすい。24とが気になる」

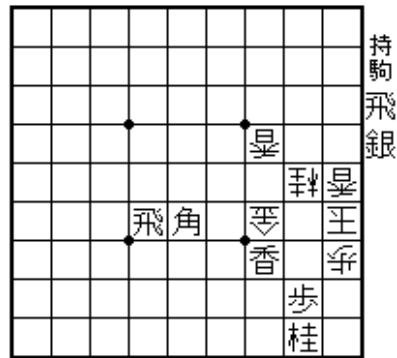
☆あまり気にはならなかったですけど、金だとうなんでしょう？

利波偉さん「例の筋に持ち込む訳ですが、21角~32銀と古典詰将棋みたいな手順で詰ますのかと思ったら、51角で退路防ぎだった。手筋ものですが、51角は印象に残る」

伊田勇一さん「初手21角を考えてしまった。作意順と似た展開となるが、詰まない。小さな配置に合うこじんまりした手順で、特に51角が良い」

☆というわけで実力発揮の優勝。おめでとうございます！

⑫やなさん作



▲27銀 △同金 ▲26飛 △同金 ▲38角まで5手。

4点-5、3点-7、2点-5 平均3.00 11位

(座談会)

蛙「続いてやなさん。これは全国大会での早解きコンテストの作品を2手伸ばしたものですね」

A「これはありそうな手順だよね」

E「これしかないでしょう」

蛙「もうちょっと伸ばしたいんですけど、流石に無理ですね。危ない紛れが多いし」

B「そうだね」

蛙「と金にしたい、という意見はありましたね。私はこれでいいんじゃないかとは思いますが」

(短評)

U r aさん「既視感たっぷりだが」

たくぼんさん「難しい易しいではなく実に上手く創ってある」

藤井孝太郎さん「と金にしてみたくなるが、成駒も置きたくない」

やっくん「角道を通すことが先決」

原亜津夫さん「一発芸物にしては気品が感じられる」

今川健一さん「26 飛打、巧い手ですねえ、感心しました」

小五郎さん「銀・飛の連捨てと合利かずの詰上りがいい」

小峰耕希さん「連続捨駒なんですけど、動きが小さくてパツとしない」

MNさん「この筋はどこかで見た気がするのだが」

☆たぶん横浜ではないかと。(笑)

忠昭さん「これで詰んでいるかと駒を並べなおした」

風みどりさん「これはやなさんだ。ずいぶん上ずった実戦型」

☆上ずりすぎです。

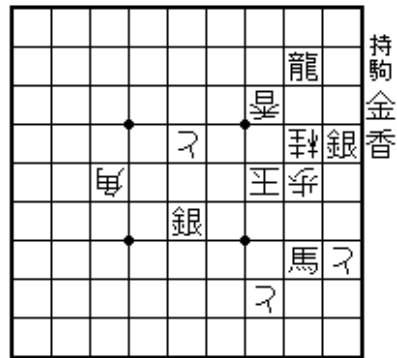
北北東さん「面白い手順だが、狭いので易しい」

利波偉さん「これは新作とは言い難い」

伊田勇一さん「アレッと思う詰上りが狙いでしょうか。33 香配置で作図すると紛れが増えそう」

☆最終2手を限定したかったのかと。

⑬冬眠蛙作



▲36香 △同桂 ▲26馬 △同歩 ▲24龍 △同玉
▲25金まで7手。

5点-2、4点-7、3点-5、2点-2 平均 3.56 6位

(座談会)

蛙「次は私のです」

E「これは簡単」

蛙「そうなんだよねえ。紛れがありそうで全くない。(笑)」

E「…っていうか最終形見えすぎですね」

B「一応17とが取れるけど取らないあたりはいいかな」

蛙「そうそう、誰も読まないと思うけど」

E「これ(38と)何とかならなかったんですか?」

蛙「そうなんだよねえ。56銀を馬にする手はあるんだけどね」

D「これ(75角)がちょっと」

蛙「好みなんですよ、こう半端に広げちゃうのが。うにょんさんから指摘受けました」

E「誰なんですか、うにょんさんって」

蛙「〇〇さんだよ。元気なんですかねえ」

B「元気みただよ」

(短評)

Uraさん「収束は見えているが歩頭へ馬捨ては気持ち良い」

うにょんさん「構図の取り方に市島臭が」☆えへへ。

たくぼんさん「26馬を中心に無難にまとめています」

藤井孝太郎さん「17馬では駄目な理由に少考。冬眠蛙さん?」

やっくん「17馬と欲張ると詰まなくなる」☆エライ!

原亜津夫さん「26馬は強烈だが、その先の逆算は難しいのだなと思った」

今川健一さん「暇人は75角の意味も考える」

小五郎さん「歩頭に出る26馬!が強烈な一手」

小峰耕希さん「実戦派には強力(?)と思える紛れが幾つかありますが、僕は詰棋派に転向して久しいせいか、余り悩みませんでした。評価は4か5かで悩んだのですが、華麗な手順に應えて5」☆(涙)

真Tさん「26馬は面白いですが、どこかで見たことあるような…」

MNさん「きれいな筋。その分、よくある筋という感じは否めない。14銀、22龍の配置で作意がすぐ見えてしまうのが残念」

忠昭さん「上手い手順なれど75角が欠伸しているし初手ヒモ付きも直したい」

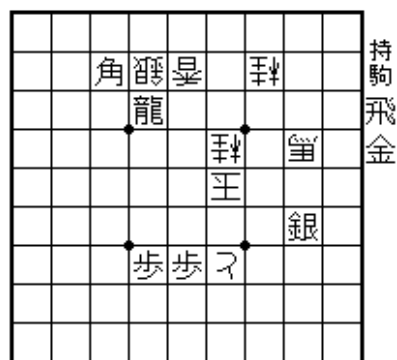
風みどりさん「3手目からは蛙さんかと思うが、初手の限定の仕方がらしくないかな」☆ぐはっ!

北北東さん「馬がいかに捨てますという顔をしている。54とが気になる」

利波偉さん「手順は派手に見えるけど、他に手が無い。不動駒も多い」

伊田勇一さん「歩の頭に又ツと出る26馬は宗看流の私好みの一手で迫力十分。75角が泣いているのが残念」

⑭藤井孝太郎さん作



▲55飛 △同香 ▲36金 △同玉 ▲66龍まで5手。

5点-4、4点-3、3点-6、2点-4 平均 3.41 7位

(座談会)

蛙「これは藤井さんですね。香を吊り上げる狙いがシブイ」

A「一目両王手だよね」

蛙「そうなんですよねえ。③と同じ形なんで若干損したかなと。本人も『比較されちゃうとつらい、って書いてました』

B「でもいい手(55飛)だよね」

E「5手詰なら十分じゃないですか。でもこれ(67歩、57歩)なんかならなかったかなあ」

蛙「銀だと余詰む、って書いてありました。58に利きができるからかな」

(短評)

Uraさん「36金は両王手へのキー」

うにょんさん「5手詰とわかったときの脱力感といったら」

たくぼんさん「36金から読んで時間がかかりました。変化が良いです」

藤井孝太郎さん「歩2枚を銀で代用したいが、余詰」

やっくん「初手強烈」

原亜津夫さん「小林氏作を髣髴とさせる。変化に61角成が入ったのが大きいと思う」☆最大限の誉め言葉ですね。

今川健一さん「一瞥、両王手。さてと」

小五郎さん「初形から予想通り、好みの詰上りで解後感良好」

小峰耕希さん「③と違って36金が作意なので2」

真Tさん「変化の61角成がみえず、一番時間がかかりました。52香がうまい配置です」

MNさん「この構図で両王手で仕留めるのは、あまりに作例が多すぎて、作図の苦心の割りに解いての感激は薄いと思う」

忠昭さん「両王手の詰め上がりは気持ちよい、手順前後がありそうで無い」

風みどりさん「これも好作。お見事な初手です」

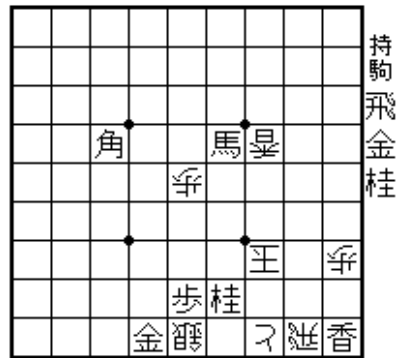
北北東さん「7手詰にできそうだがそうしないところが作者のこだわりか」

利波偉さん「③との姉妹作？両王手を作意にすると、配置が③に比べて広がる訳か、、、。難しいものですねえ」

伊田勇一さん「両王手は短編の華で、本作もうまくできています。しかし、多くの作家が発表しているので新味が欲しくなります」

☆5手詰で7位はすごい。さすがの一言です。

⑮冬眠蛙作



▲36金 △同香 ▲49桂 △48玉 ▲26馬 △同飛
▲43飛まで7手。

5点-3、4点-8、3点-4、2点-1 平均3.81 2位

(座談会)

蛙「意外と評判よかったです、これ」

D「そうそう。難しかった」

E「見えないですね、収束が」

蛙「ただ、配置がねえ…。あと変化に出てきちゃうんだよね、作意が」

D「なんとかならなかったの？せめて馬をこちに引く紛れを残さないと」

蛙「そうですねえ。5手目66馬だと49玉で逃げたらベストなんですけど。余詰みまくりでした」

D「67ととかにして…ダメか」

E「こっちも(17歩・19香)何とかしてほしい」

蛙「すみません、締切間際に作ったものなので…(汗)」

(短評)

Uraさん「44馬を捌いての43飛は見えているが、36の地点で26竜を予め間遮しておくのがオシャレ」

うによんさん「惜しむらくは2手目48玉の変化」

クロさん「この収束に持っていくのに気づけば瞬殺。だが、見えにくい」

たくぼんさん「何故か詰上がりが分かったので、苦勞はしませんでした、初手が入ったのは上手い」

藤井孝太郎さん「26馬、同飛の瞬間、初手に気づく。中村さん？」

やっくん「47飛がそれらしく見えて26馬が見えない」

原亜津夫さん「初手の意味が面白い」

今川健一さん「最終手に願いを込めて。その気持ちは理解出来る」

小五郎さん「36金・同香で後の龍の横利きを止めるのが見えにくく、第3番の次に時間がかかりました」

小峰耕希さん「初手の伏線や馬捨は好みなのですが、最後2手の組合せが6通りもあるのがフェアリストにとっては不満。もっとも無理に限定しようとする、狙いがばれ易くなりそうな気もするのですけどね」

MNさん「飛効きを遮断するための伏線の初手が好手。6手目、7手目の非限定、桂打ちの場所が1箇所しかない事など、もう一工夫欲しい」

忠昭さん「スカットする詰めあがり」

風みどりさん「手順はかくあるべしという構成だが変化処理がもう一歩」

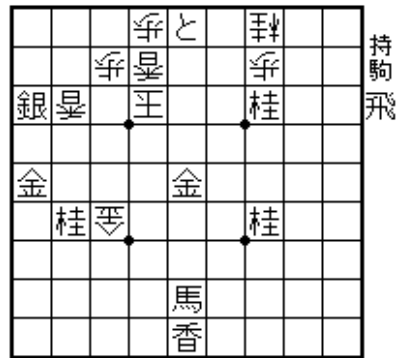
☆いや、2・3歩足りませんね。こりゃ。

北北東さん「角と桂の効きしかないと、広い感じがして解きづらい」

利波偉さん「36金が伏線手で良いインパクトを与えている。首位でしょうか？」

伊田勇一さん「44馬がじゃま駒であることを見抜くことは簡単だが、36金が見えないと意外と手こずる。好作と思うが、55歩配置で創作完としないでいただきたい。これをなくして、馬を左右に振る手を残して欲しかった」

⑩小峰耕希さん作



▲66飛 △同金 ▲85馬 △同香 ▲54金 △73玉
▲84金まで7手。

5点-1、3点-7、2点-7、1点-1 平均2.56 14位

(座談会)

蛙「最後は小峰さんの意欲作です」

E「やっぱり小峰さんだったか。ちょっとでもコレ、見えてるよなあ」

A「あと収束がなあ」

D「そうそう」

蛙「う～ん、確かにこの配置はいかにもソレ、という感じですしねえ」

E「あと、こっち側(3筋)の配置なんかしないと」

蛙「そうそう、作者も書いていたけど36桂が紛れを消してもったいないよね。左に寄せてなんとかならないか…ダメだな。やっぱり収束の方を変えるべきかな」

E「まあでも初めてなら良くできてる方。これから頑張ってもらいたい」

(短評)

Uraさん「初手のガツン感はいい」

うにょんさん「もうひとつ何かを期待してしまう」

藤井孝太郎さん「初手がなかなか見えなかった」

やっくん「見た目ほど難しくなかった。66飛が強手」

原亜津夫さん「若いなあ」☆ほんとに。

今川健一さん「この配置で7手詰とは！ああ驚いた。初手実現の為の苦心の配置？」

小五郎さん「やや考えて66飛～85馬捨てが見えると、もうこの筋以外は考えられなくなりました。何とも大胆」

小峰耕希さん「思いがけずアンカーに起用されてしまいました。これは一生懸命作った努力が報われたのか、はたまた駒を使い過ぎた罰が当たったのか(笑)とにかく初手を成立させるのに精一杯で、他は全て目を瞑ってしまいました。出題稿を見て気付いたのですが、61歩が合駒制限にしか働いてないですね。創作当初は紛れで62香を取られないように、という役割があったのですが、途中でそちらはお役御免だった模様。仕方ないような気もしますが少々残念。順位・評点予想…6位～10位で3.5～3.0程度。(幅が広過ぎる?)」☆う～む、意外と厳しかったです。

MNさん「この構図で作るほどの狙いとは思えない」

忠昭さん「飛限定打は巧いし苦心の配置で意欲は買うが無理作りの感あり」

風みどりさん「んー」

北北東さん「荒削りだが、ねらいを実現させようとする気持ちは伝わる」

利波偉さん「66飛を実現するための配置ですが、重すぎる。しかもその手が一番見えやすい手である」

伊田勇一さん「トリの一番であり、大きな配置なのだから、解く方としてはどうしても期待してしまう。配置に見合った手順にすれば評価も上がった。とは言え、作者のやりたかったことは伝わりました。遠打は何回見てもいいものです」

たくぼんさん「よい意味でも悪い意味でも私には真似できない若さと言え
ようか。この収束で発表するのはもったいないというのが第1感」